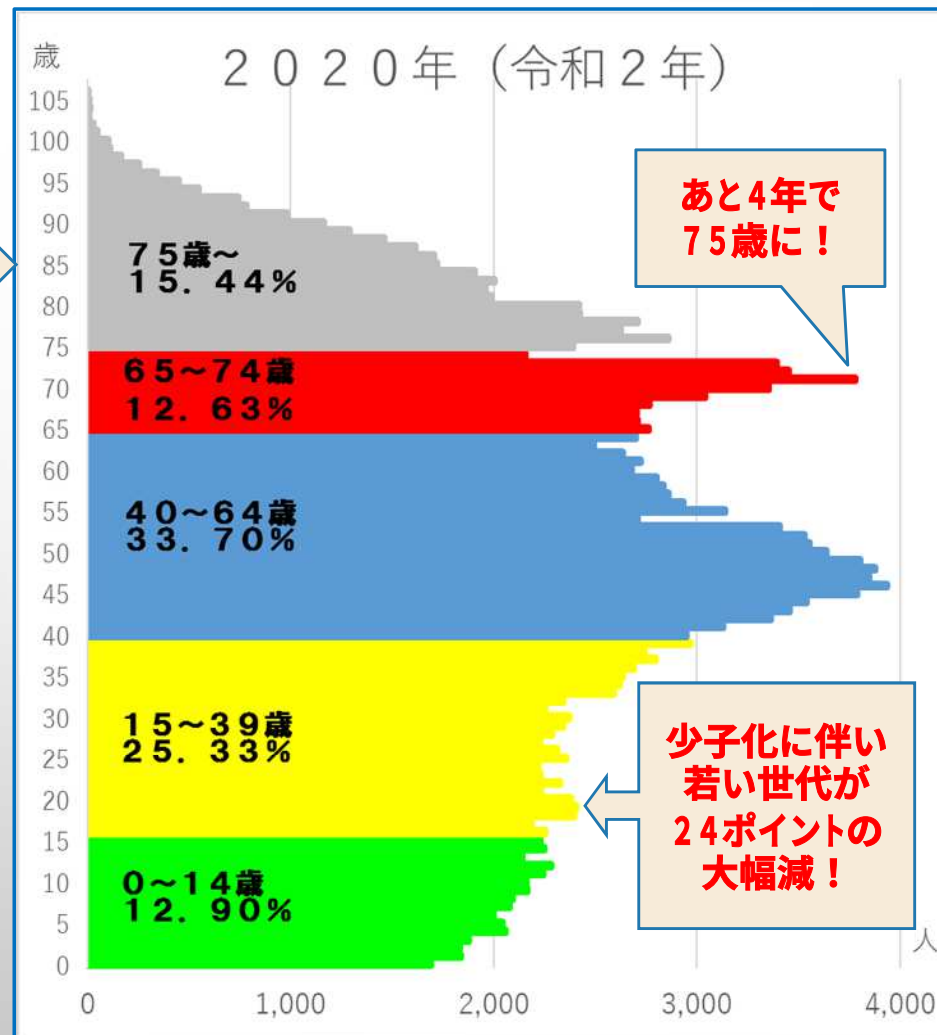
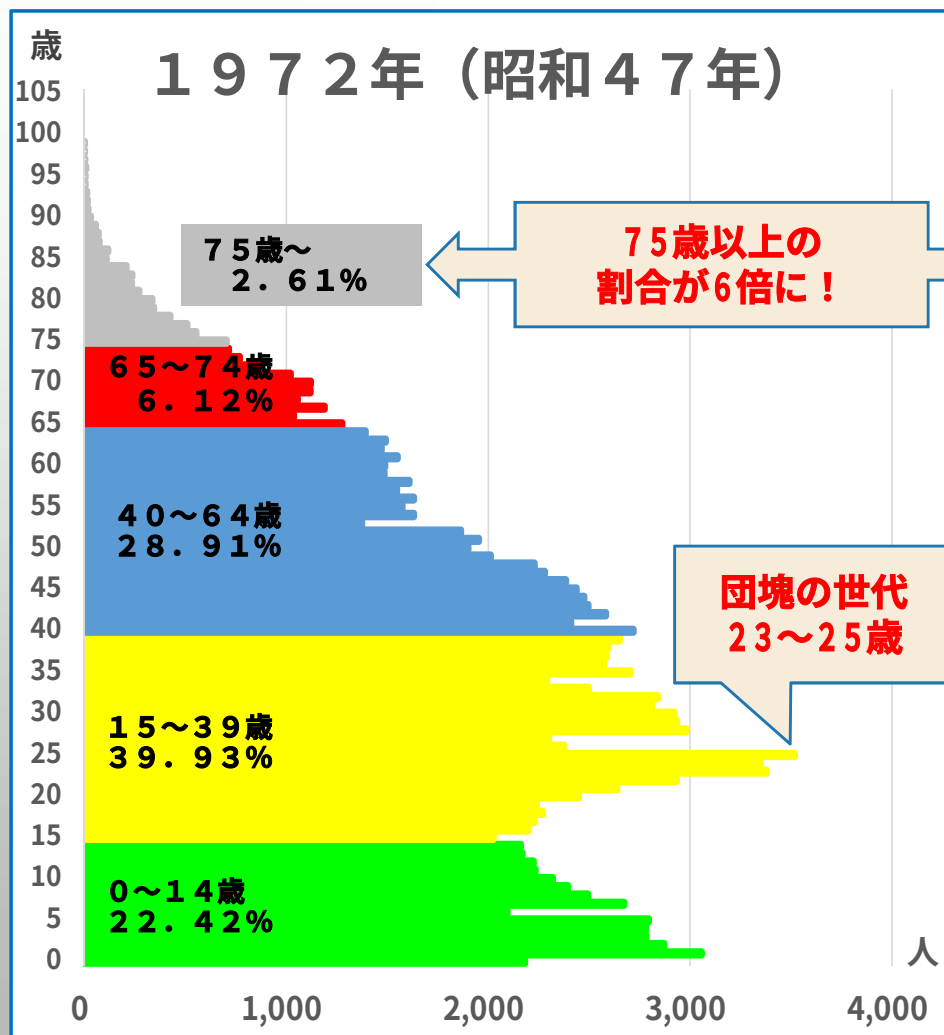


松本市多事争論会

田川・庄内・鎌田・松南地区

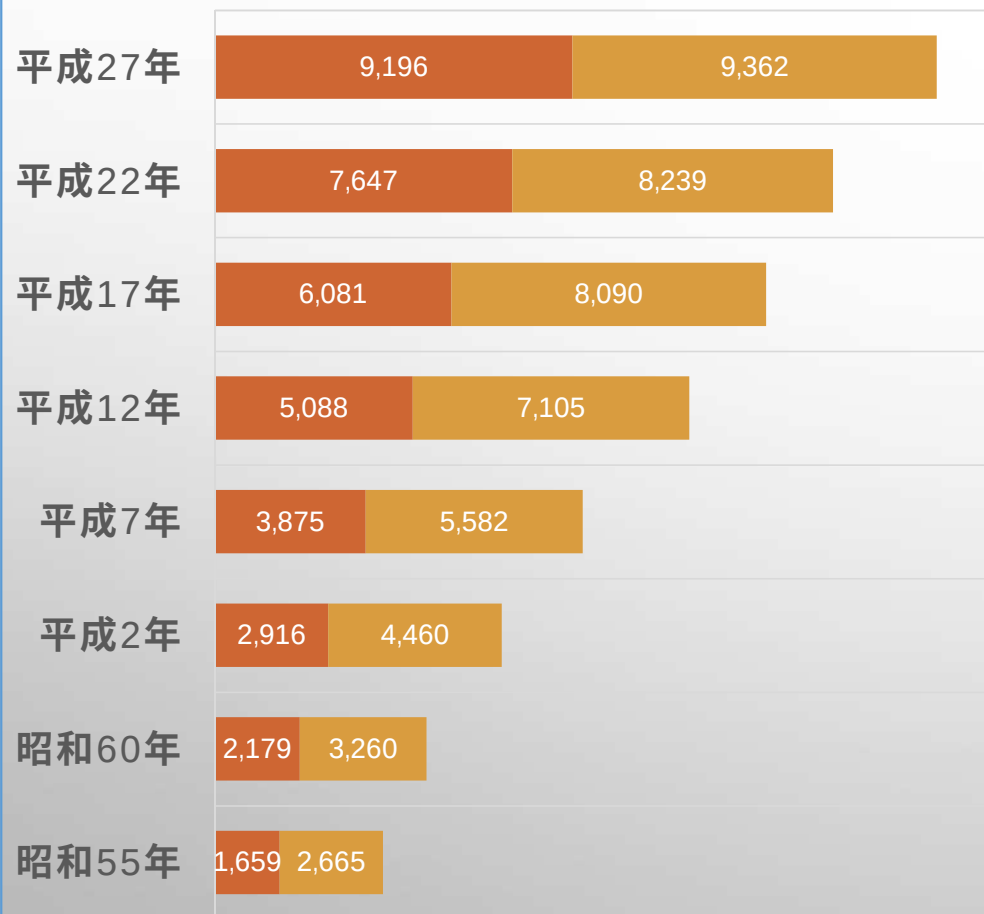
地域包括ケアの構築

1. 松本市の人口高齢化

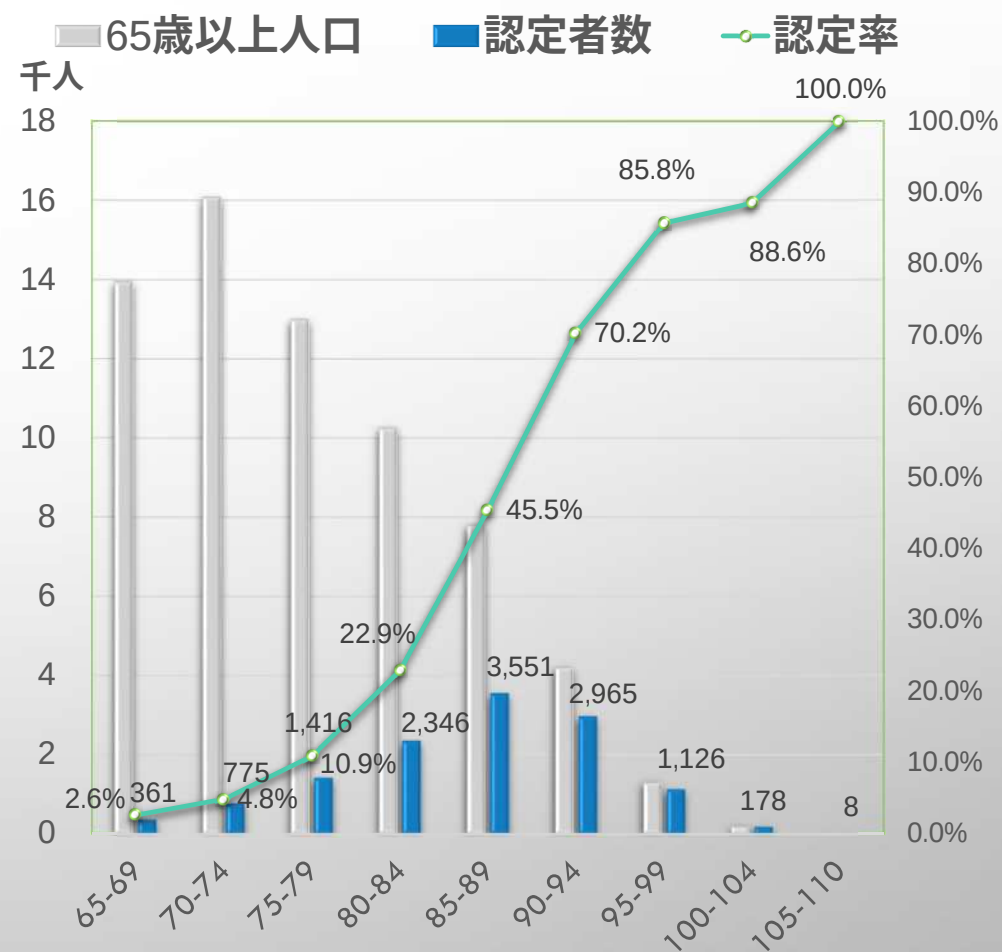


高齢世帯の状況

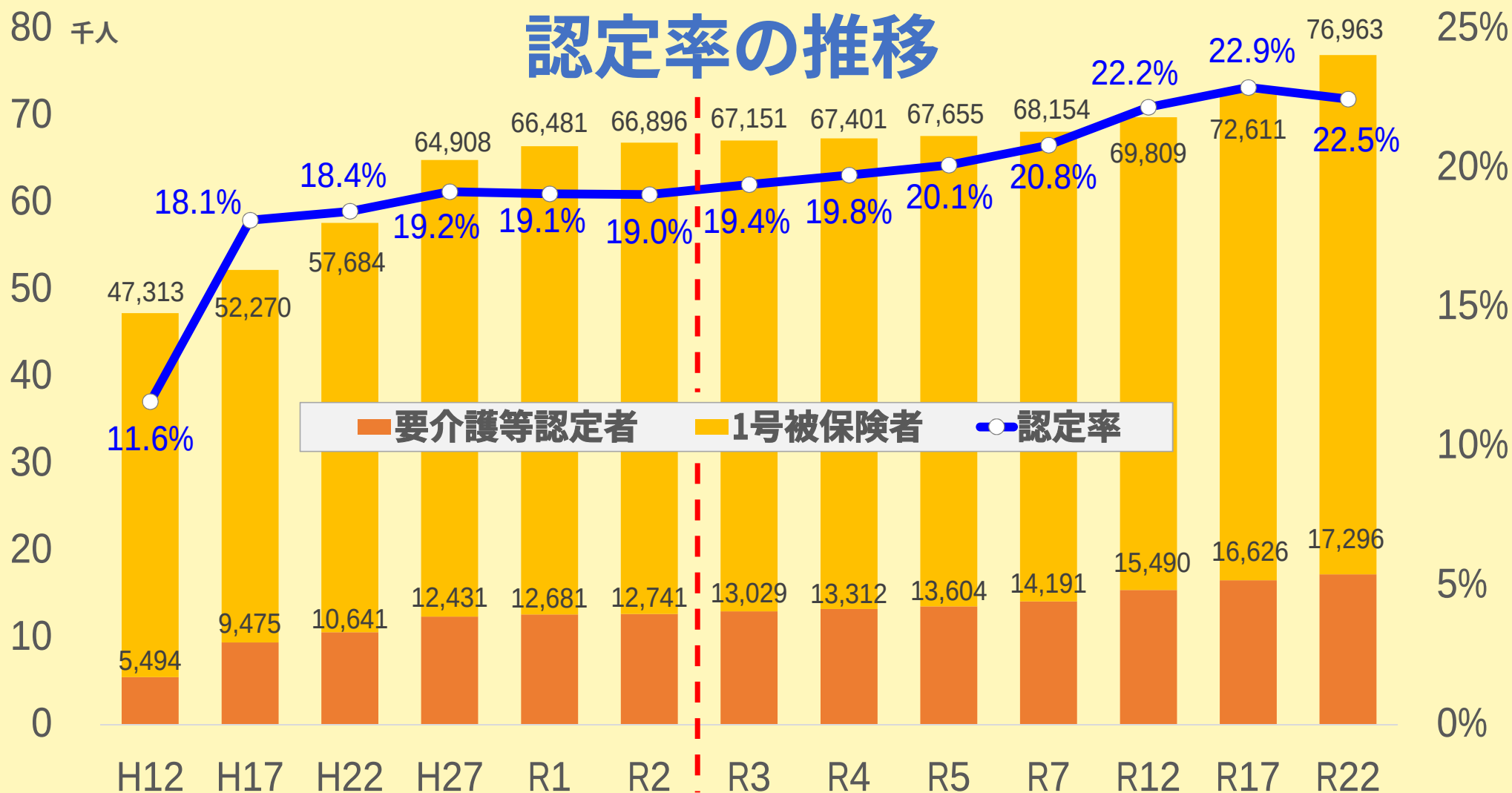
■ 高齢者ひとり暮らし世帯 ■ 高齢者夫婦世帯



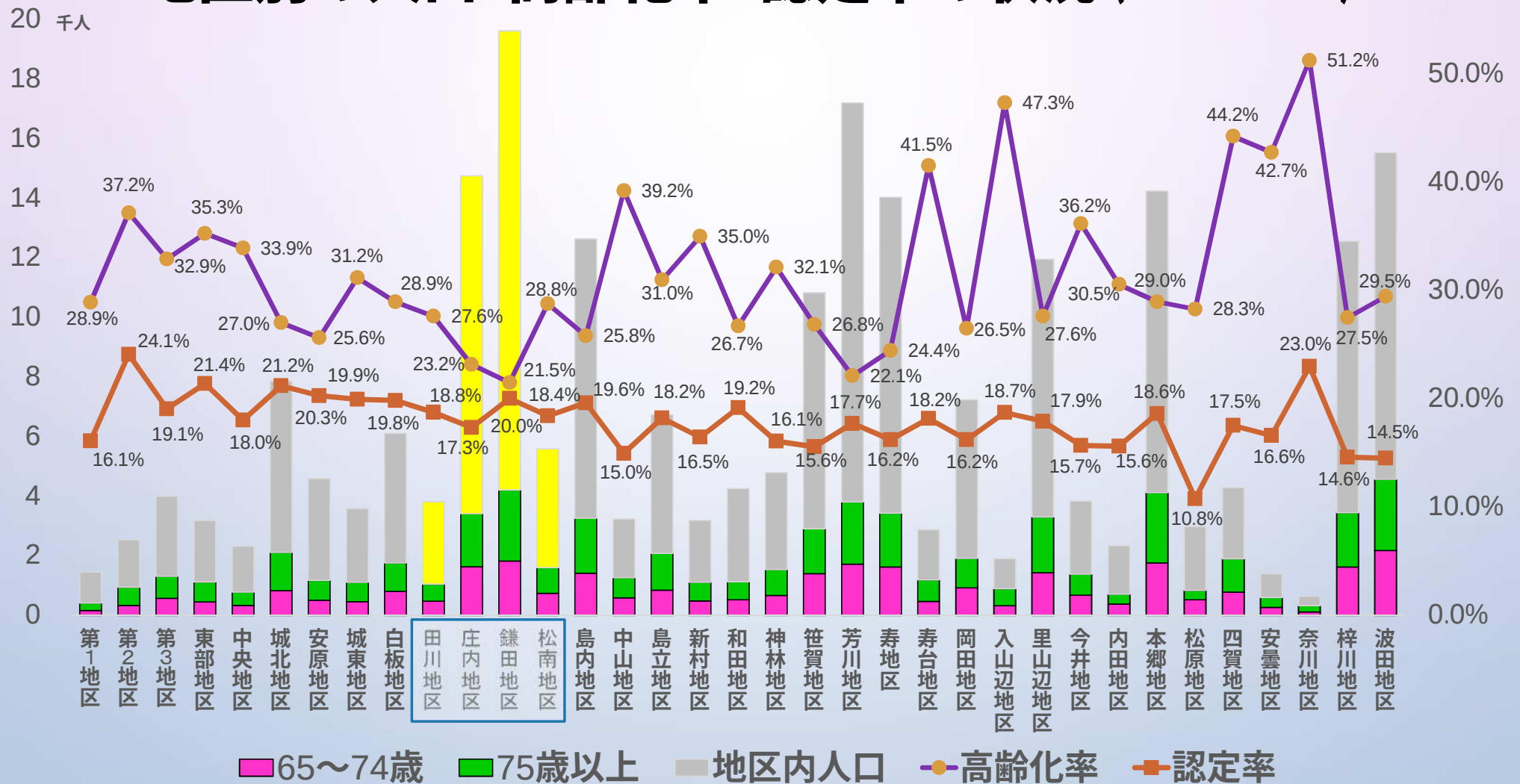
年齢と認定率の関係(R2.9.30)



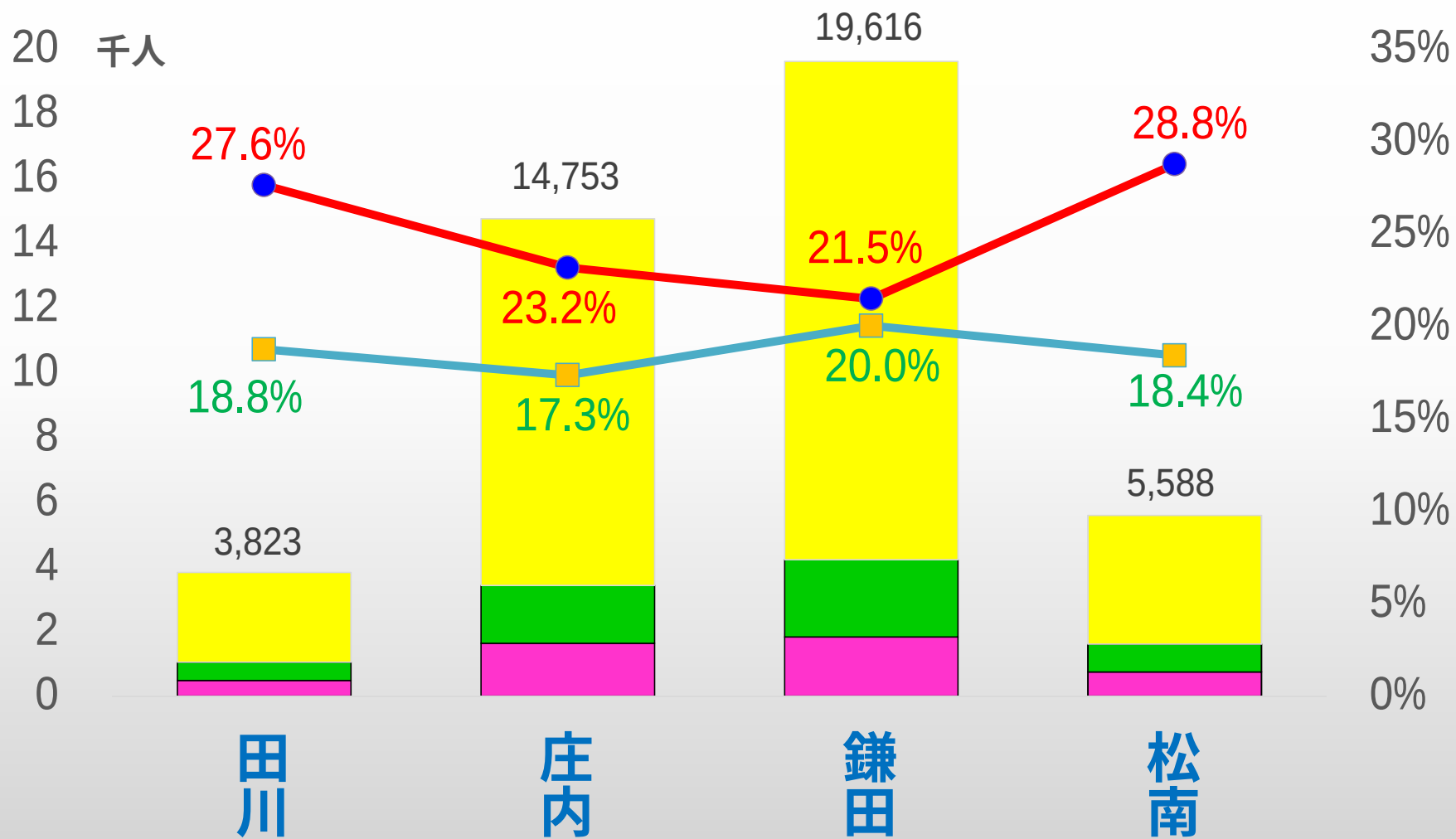
認定率の推移



地区別の人口・高齢化率・認定率の状況 (R2.10.1)



■65～74歳 ■75歳以上 ■地区内人口 ●高齢化率 ■認定率



超少子高齢型人口減少社会



生産年齢人口の減少による

介護の人手不足社会

後期高齢者の増加による

ケアの需要が増大

専門	介護	看護	入浴	服薬
ご飯を作る		ご飯を食べさせる		
育児	〈ケア＝世話〉			家事
掃除・洗濯		ゴミ出し	買物介助	
布団の上げ下ろし			愚痴聞き	
お手伝い				

これまで以上にケアが必要とされているのに、
ケアを提供できなくなる??

2. 地域包括ケアシステムとは

増大する〈ケア=世話〉の必要に対して、どうすればいいのか？

健康寿命延伸
介護予防・認知症予防

1

〈ケア=世話〉の状態を
むやみに増やさない

地域福祉の推進
気軽にできる助け合いの拡大

2

〈ケア=世話〉に関わる人
を増やし、
数多くの〈ケア=世話〉を
寄せ集める

3

必要としている人に
〈ケア=世話〉を
迅速に届ける

地域資源の総動員
医療と介護の連携
地域包括支援センター

4

〈ケア=世話〉の問題を
家族に封じ込めない
引き受ける環境をつくる

助け上手・助けられ上手な生き方
困りごとのバトンを受け取る自治体

松本市包括ケアシステム推進事業 地域の支え合い活動支援ガイドより

自助

互助

共助

公助

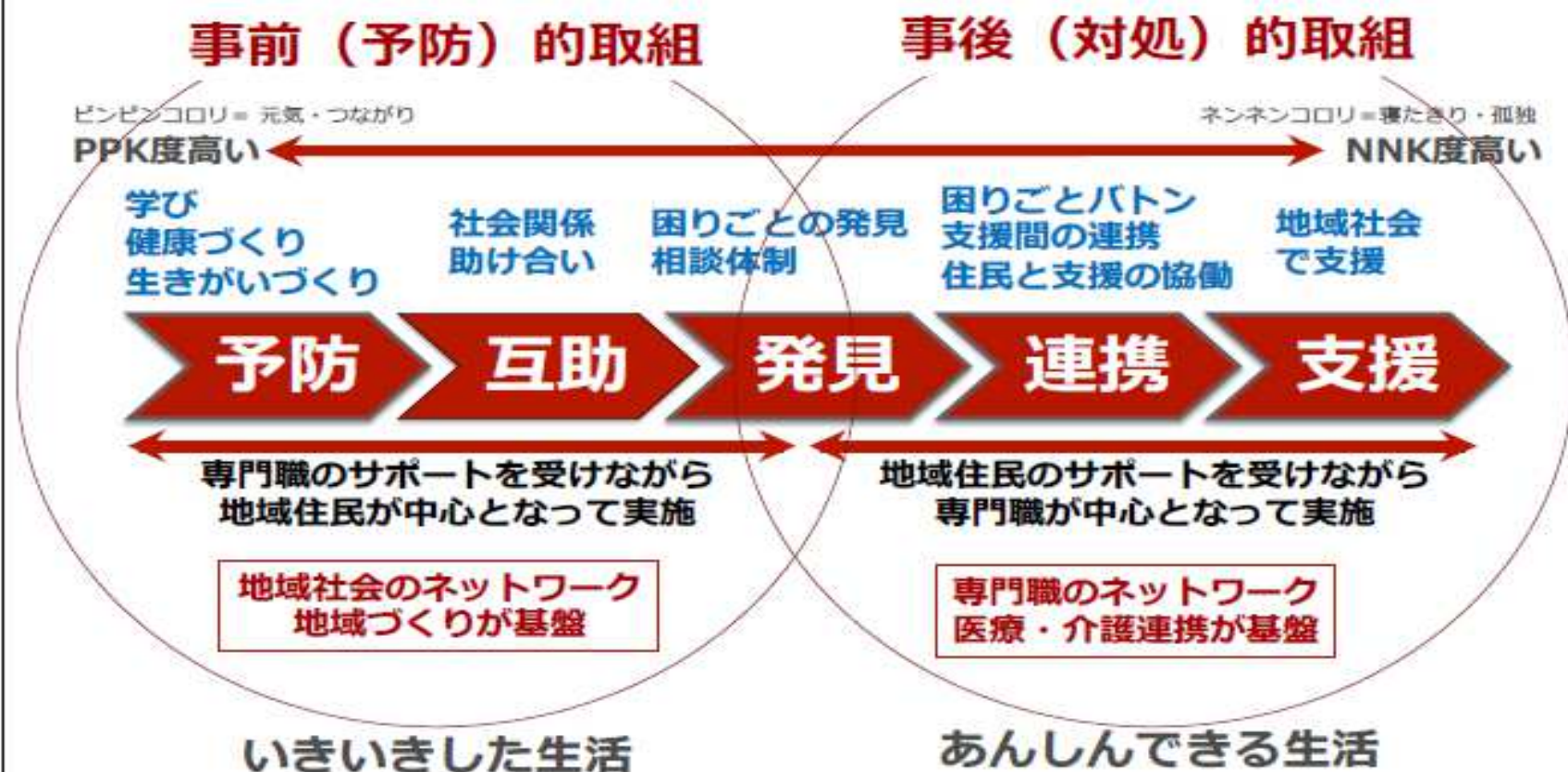
住民
・地域

地域づくりセンターを中心に構築

地域包括支援センターを中心に構築

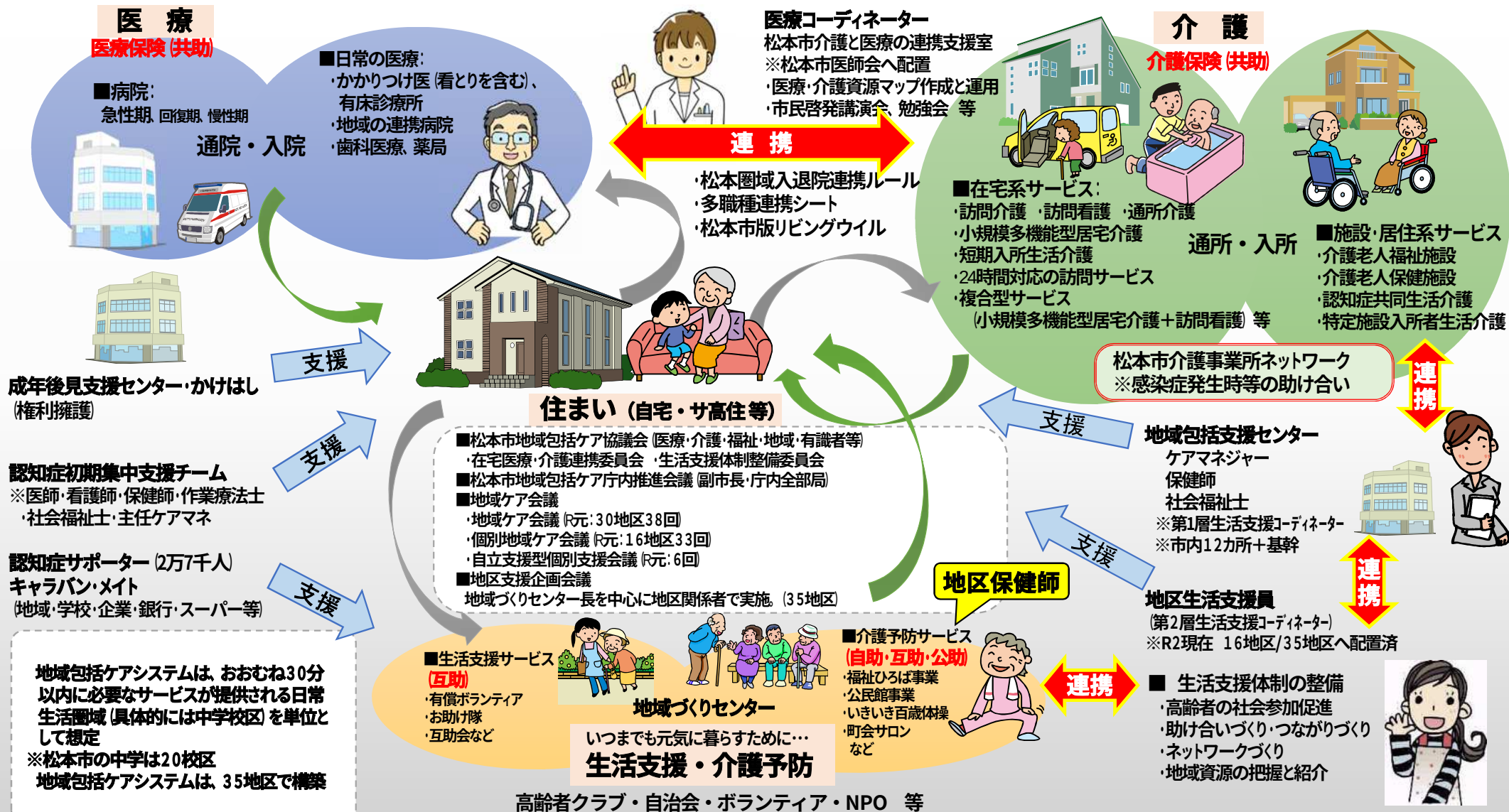
行政・
専門職

地域包括ケアシステムの2つの基盤



松本市包括ケアシステム推進事業 地域の支え合い活動支援ガイドより

松本市 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み



3. 課題

■ 今後の課題と地域包括ケアの深化

◇ 介護人材・担い手の確保

- ・働き手の確保 ⇒ 介護保険サービス量の維持
- ・人口流出の防止（新たな住民の確保） ⇒ 地域コミュニティの持続

◇ 地域づくりの強化

- ・地域づくりセンターの機能強化

◇ 地域共生社会の実現に向けた取り組み（地域包括ケアの深化）

- ・持続可能な地域社会の実現へ
- ・複合問題への対応
 - ＊ 8050問題
 - ＊ ダブルケア問題

松本市が「スーパーシティ構想」で目指すこと

松本の地域課題を松本のマチガラにあった形で解決

松本が抱える問題に

地域の 問題

中山間地の高齢化、
人口減少、防災対策

中心市街地の渋滞
賑わい活力の低下

健康寿命の延伸
医療・福祉・健康
データの分断

ポストコロナに
マッチした
産業振興、教育

...



松本にある大きなポテンシャルを活かして

ポテン シャル

世界に誇れる山岳景勝地
+
再生可能エネルギーを
生み出す豊富な自然資源
太陽光発電最適地

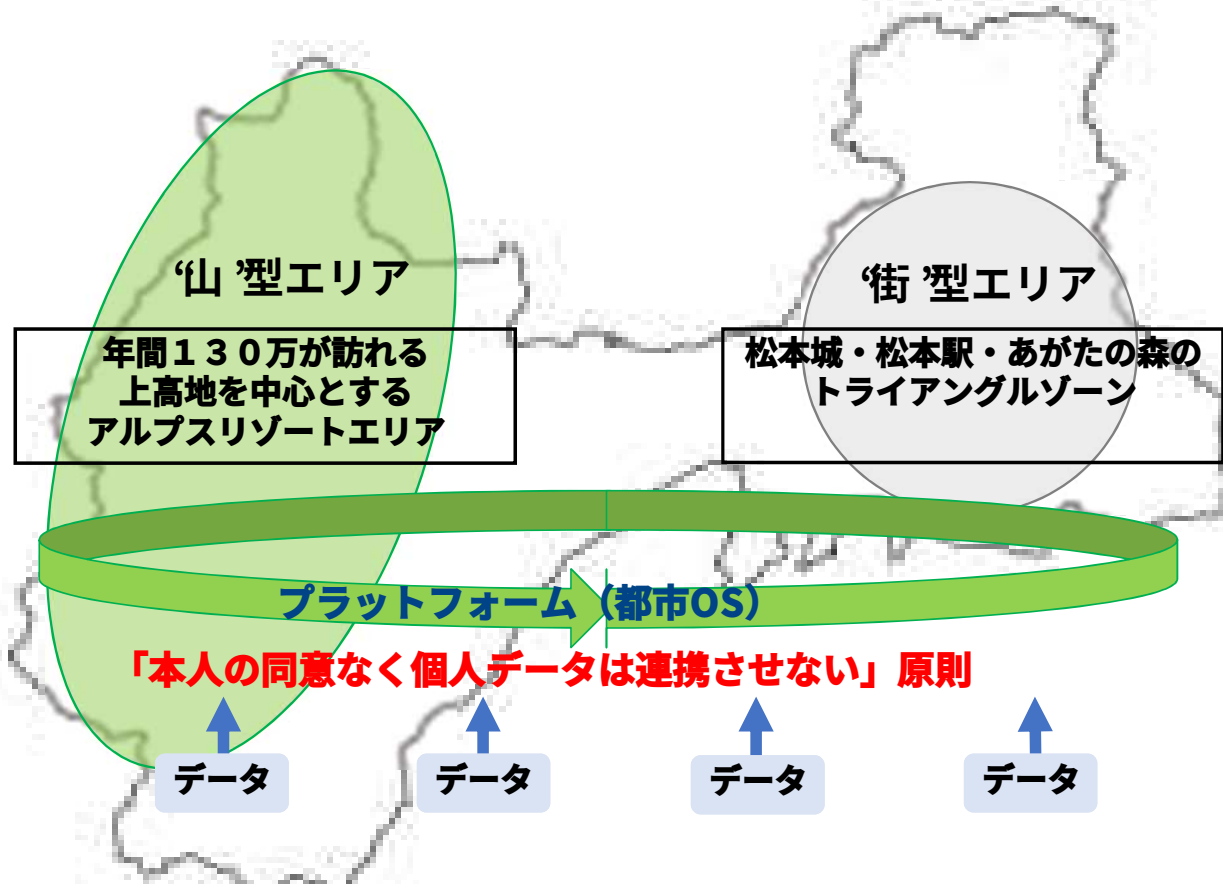
都会、自然との
ほどよい距離感
+
文化的・都市的要素

信大、相澤病院を筆頭に
恵まれた医療環境
+
健康産業を創出する
テストベッド
「松本ヘルス・ラボ」

地方移住の
人気ランキング
1位長野県
+
ICT拠点「サザンガク」

...

松本市が抱える問題に対し、
松本が持つポテンシャルを活かして、松本の地理的特徴の類型ごとに解決



取組領域
の想定

① ‘山’型（アルプス山岳エリア）
エネルギー、移動、防災・安全、
働き方・産業、支払い、教育、
医療・介護

② ‘街’型（トライアングルゾーン）
エネルギー、移動、防災・安全、
働き方・産業、観光、賑わい

③ ‘全域’型
医療・介護、行政 ...

庄内地区の地域包括 ケアの状況



1 庄内地区の現況

- (1) 人口 14,753人 (市内4番目に多い)
- (2) 世帯数 7,050世帯
- (3) 高齢化率 23.2% (65歳以上 3,418人)
※ 町会により大きな差 17.1%~39.9%
- (4) 町会数 15町会
※ 加入世帯数 62世帯~1,170世帯と大きな差
- (5) 外国籍住民 340人 (松本市全体4,084人)
※ うち93人が、並柳団地町会に居住
並柳団地町会の13.9%を占める。

人口世帯数はR2.10.1現在
外国籍住民はR元.8.1現在

2 地区内の取り組み状況

(1) サロンなど実施状況

ア 町会・高齢者クラブ主体 5か所

イ 町会内有志主体 3か所

ウ 町会を超えた有志主体 3か所（ひととき・おいでや・居寄庵）

(2) 有償ボランティア

ア 地区住民が主体的に実施している有償ボランティア（外出支援・買い物支援・家事支援など）3団体

イ 「集い場ふらっと」（並柳団地まちづくり協議会）による外出支援

(3) 町会内でのボランティアによる見守り活動

南新町1丁目町会にて熱心な取り組み

(4) こどもの居場所づくり事業

「なみカフェ」（並柳団地町会）及び「ふらっと」
（並柳団地まちづくり協議会） 2 か所

(5) 庄内地区まちづくり協議会

ア 平成29年度から取り組みテーマに「地域包括ケア」を
位置付け

イ 平成29年度から協議会内に地域包括ケア委員会を設置
研修会等開催してきた。

(6) 地域ケア会議の開催

中央南地域包括支援センターを中心に年1回開催

昨年度から、全地区対象ではなく、地区内を3つの
ブロックに分けブロックごとの実施としてきた。

3 地区内の課題と そこから見えるもの

(1) 庄内地区は人口も多く、町会ごとに高齢化率や規模に差があり、地区全体での支えあいシステム構築は難しい

→ 単独町会あるいは複数町会単位でのシステムづくりの方がやりやすいのでは・・・

(2) 地域包括ケアシステムという言葉は わかりづらい

**→ 地区の会議で何回か言われているが
何かいい言葉はないか。**

**庄内地区としての標語的なものを考
えていきたい。**

(3) サロンなど集いの場の充実の必要性

**サロンが実施できていない町会もある。
もっと多くの場所でサロンが行えるような
支援が必要**

**→ 有志によるサロンは、送迎もありサ
ロン同士の連携もあり、相互に運営を
助け合っている。こうしたサロンの充
実を考えていきたい。**

(4) 有償ボランティアの人材発掘・育成

地区生活支援員に寄せられる相談事の多くは外出支援・買い物支援

有償ボランティアによる外出支援等は、タクシーに比べ安価であり、利用しやすい。

→ こうした活動を担う方々の人材発掘・育成が求められている。

(5) 並柳団地町会での活動支援

高齢者や外国籍住民などいわゆる弱者と呼ばれる住民が多い。役員選出の困難、一部役員への負担増など町会運営にも支障が出てきている。そうした中、住民相互の支えあいだけでは難しい。

→ NPOや大学との連携による支えあいシステムづくり考えていければ・・・